

---

# パラリンピック・選手会の意義・役割に関する国際比較研究 - アスリート・ファーストが強調される現代における選手会の機能と政治力 -

田中 暢子(桐蔭横浜大学)

奥田 睦子(金沢大学)

大日方邦子(一般社団法人日本パラリンピアンズ協会)

佐々木朋子(桐蔭横浜大学)

発表日時：2015年4月13日（月）

於：ANAインターコンチネンタルホテル

---

---

研究の背景

# Research backgrounds

---

# 国際オリンピック委員会 (IOC) アスリート委員会

IOC Athlete Commission

---

## □ 設立年： 1981年

※ 1981～1998年のアスリート委員会は、他の委員会と比較し、会の力は弱かった。しかし、1999年、IOCアスリート委員会の改革がなされ、選手の声をより政策過程に届けるシステムが確立された。

## □ 設立目的： オリンピックムーブメントの一環でアクティブな選手の声としての機能を果たすこと。

## □ 構成メンバー： 19名

夏季種目(8名)、冬季種目(4名)、サマランチ会長の任命(7名)

---

# 国際パラリンピック委員会 (IPC) アスリート委員会

IPC Athlete Commission

---

- 設立年： 1989年
    - ※ 設立当初は、IOCと同等の委員会を設置することにあつた (Nicolson, 2015, インタビュー)
  
  - 初代会長： 英国人 Martin Mansell氏 (水泳)
  
  - 設立趣旨： パラリンピックムーブメントにおいて、選手の声拾うことにある。そしてIPCの政策決定を行うものとパラリンピアンとのリエゾン (連絡調整担当) として、IPCアスリート委員会は様々な委員などを含む全ての関連団体の政策決定に効果的な情報を提供する。
  
  - 現IPCアスリート委員会委員長  
「パラリンピックムーブメントが高まる中で、我々は選手とパラリンピック成功に関わる決定に選手の声 (Athletes Voices) が届くようにすることが責務と考えている」 (Nicolson, IPCアスリート委員会, 2013)
-

# Athlete commissionの2つの機能

英語では、Athlete commission, Athlete councilなどがあるが、統一された表現は見受けられない(河合, 2015, インタビュー)

## アスリート委員会

- 組織の中の一委員会として位置づけられる。
- 資金は親組織が賄う。
- 政策過程により関わる。

## 選手会

- それ自体が組織。
- 選手の交流、勉強会の開催、社会貢献活動を行う。

日本パラリンピアンズ協会(PAJ)  
(2003設立)はこちらに該当

## 選手の声とパラリンピック

---

### □ IPC会長Craven氏(2014, インタビュー)

「**パラリンピックは障害をもつ選手の世界最高峰の大会**である。…(略)…パラリンピックの創始者、Guttmann氏はスポーツよりもリハビリテーションへの関心が強かった。そのため、よく口論をした。」

⇒ Craven氏の選手時代の思いを具体化したのが、現在のパラリンピックと言えるのでは？

---

問題意識

# 研究の意義と社会背景

---

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の招致成功、省庁の一元化といった社会背景が見られる我が国において・・・

パラリンピアンを政策過程に反映させるには、どのようにすればよいのか。

個ではなく、利益集団 (Interest group) としての「選手会」とは、どのような機能を果たすのか。

⇒ 方向性を見出すために、

**海外の選手会の役割と機能、政治力に着目**

(国際比較研究を行うことの重要性)

---

---

# 研究方法

---



# 調査概要

## □ 半構造化インタビュー（1人 約45～60分）

対象国	調査協力者	パラリンピアン	所属機関	役職	実施日時	実施場所
カナダ	Jasmine Northcott氏		AthletesCAN	常任理事	2015年2月19日	スカイプ
	Tyler Mosher氏	✓	カナダパラリンピック委員会	役員会委員	2015年2月20日	スカイプ
	Catherine Gosselin-Després氏		カナダパラリンピック委員会	スポーツ部長	2015年2月24日	スカイプ
ドイツ	Manuela Schmermund氏	✓	ドイツアスリート委員会	会長	2015年1月13日	電話
英国	Phil Craven氏	✓	国際パラリンピック委員会 (IPC)	会長	2014年10月14日	都内ホテル
	Tim Hollingsworth氏		英国パラリンピック委員会	CEO	2015年2月26日	メール
	Susannah Rodgers氏	✓	英国アスリートコミッション	理事	2015年2月16日	スカイプ
香港	Martin Lam氏		香港パラリンピック委員会 / 障害者スポーツ協会	事務局長	2015年2月12日	香港パラリンピック委員会事務所
	Yu Alison氏	✓	IPCアスリート委員会	委員	2015年2月12日	フェンシングスクール
日本	河合純一氏	✓	日本パラリンピアンズ協会	会長	2015年2月25日	電話

---

# 選手会の世界動向

---

# カナダ

## カナダパラリンピック委員会(CPC)選手会

- 内部組織。CPCが運営費を。
- 各NFからの推薦により選出。6名により構成
- 委員長は、役員会委員に。選手会で話し合われたことは、役員会に報告される。
- CPCの意思決定に強い影響を与える。CPCは、「選手はパラリンピックムーブメントの核となり、競技に関わる資源は選手が誰よりも詳しいため、選手の声はCPCの運営に重要」と選手会を評価
- パラリンピアンへの雇用あり

## AthleteCAN

- 独立した組織
- スポーツカナダが56%の費用を出資
- カナダ代表であれば誰でも会員になれる
- ベンジョンソンのドーピング問題を機に設立
- 「選手の声を集め、代弁すること、スポーツの発展に貢献すること」を命題
- 選手の相互支援、情報提供を主な活動とする。
- 選手の人材育成への貢献

# ドイツ

- パラリンピアン<sup>①</sup>の意見を集約する組織として選手会は、ドイツ障害者スポーツ連盟(DBS)の運営規則第3条現役選手の代表(Vertretung der Aktiven)において、現役選手スポークスマン会議(Aktivensprecherversammlung)として設置
- 現役選手により構成。各競技から1名選出。
- 1年に1回開催される集会への参加義務あり。但し、全員の参加は難しいため、5名で構成される現役選手顧問委員会(Aktivensprecherbeirat)を設置。
- 各領域の代表者が対等に協議し、決定するという民主的な意思決定の過程を重要視。置かれている環境が異なる競技の意見を調整するためには、トレーニング環境の改善に関わる課題や制度を中心に協議。

# イギリス

## パラリンピック協会 (BPA) 選手会

- 2012年ロンドン大会後に設立
- 事務全般をBPAが担当
- 9名の選手により構成 (夏季8名、冬季1名)
- BPAの会長はブラサカの選手
- BPAは3名のパラリンピアンを雇用。通常の業務にもパラリンピアンならではの考えを反映させるため。⇒2010年平等法が根拠に。

## 英国アスリートコミッション (BAC)

- 独立組織
- UKスポーツが主な出資団体
- 国際的な競技力向上・強化策の流れを踏まえ、2004年にオリンピックを中心に設置。
- 英国代表選手であれば、誰でも会員に。
- 設立目的: 選手に関わる全てのことに対し、各会員に構成で秘密保持を厳守したアドバイス、支援、ガイドを行うこと。
- 選手個人の問題に特化するのではなくスポーツ界の問題とすることが重要。
- 選手教育は、現役時代、引退後ともに重要。

# 香港

---

- 選手会は設置されていない。
  - IPC選手会の委員となるパラリンピアン(Yu氏)がいる。
  - Yu氏は2008年、唯一のアジア代表として選出。2期目。
  - 小さい国であるために、香港パラリンピック委員会 & 香港障害者スポーツ協会(HKPC)が選手の問題をモニタリングする機能がある。
  - HKPCに寄せられる選手の声は、活動資金に関わるもの。
  - HKPCは3名のパラリンピアンを雇用。
  - 選手側が声を届ける際の3つの留意点。①スポーツ界全体の視点での意見、②選手教育の充実、③客観的なデータを示すこと。
  - パラリンピアン意識がまだ未熟であり、費用確保が難しいが、将来は選手会を設立したい(Yu氏)。一方、HKPC事務局長Lam氏は、IPC選手会は内部組織であるため、親組織の影響を受けるとの危惧を示す。
-

---

# 結果と考察

---

# 選手会の2つの機能

## アスリート委員会

- 親組織より資金提供を受ける内部組織
- 選手の声を政策過程に反映させるシステム。例：役員会委員に
  - ⇒ スポーツ界全体の問題として伝えることが重要(Rodger; Yu; Moscher)。
- 関わる選手は少なく、任期付き。
- 親組織の影響を受ける可能性有。
  - ⇒ 親組織と選手の調整を図るのも選手にとって大事なキャリア(河合, 2015, インタビュー)
  - ⇒ 選手会はコントロールを受けるといよりも、Supportを受けるという考え方が正しい(Nicolson, 2015, インタビュー)

## 選手会

- 独立組織。但し、カナダ、英国はスポーツカウンシルが資金を出資。
- 選手の相互支援とスポーツ界の発展への貢献。
- 国代表選手であれば、誰でも会員に。
- 選手教育(アンチドーピング教育を含む)も重要視。
- 選手の声を代弁するアドボカシー機能をもつ。



# アスリート委員会と選手会の比較

	アスリート委員会	選手会
選手数	少ない	多い
委員(会員)選考	あり	なし
パラリンピック委員会との関係	<ul style="list-style-type: none"><li>・内部組織</li><li>・コントロールを受ける可能性はある</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・外部組織</li><li>・選手間のネットワークを結ぶ団体</li></ul>
機能	政策決定過程に関わる	<ul style="list-style-type: none"><li>・選手の相互支援</li><li>・選手教育</li></ul>
資金の出所	親組織のパラリンピック委員会	国によるが、本研究の対象国はスポーツカウンスル

# 世界の選手会

---

- 設置状況は国により異なる。  
⇒ 選手会は発展途上にあるのでは？
  - NPCの選手雇用も重要な、選手の声が届ける機能である。
-

## パラリンピック委員会(NPC)と選手会の国際比較

	カナダ	ドイツ	英国	香港
NPCの設立年 [ ]内は障害者スポーツ連盟の 設立年	1993年 [1981年]	2001年 [1975年]	1989年	2005年 [1972年]
NPCによるアスリート委員会の 有無	有	有	有	無
アスリート委員会名称	CPC選手会	Aktivensprecher versammlung	BPA選手会	—
選手会名称	AthletesCAN	未確認	British Athlete Commission	—
選手会の設立年	1992年	未確認	2004年	—
選手会主たる活動経費助成団 体	スポーツカナダ	未確認	UKスポーツ	—
選手会におけるオリンピック選 手との連携	有	有	有	—
選手会の特徴	システムを整備 すること	アスリートの意見集 約の場	選手に関わるすべての こと	—
国際オリンピック委員会(IPC)ア スリート委員会への委員派遣	有	有	無	有

# 選手の声が届けるには

---

## □ 声を届けるシステムの確立

1. NPCでパラリンピアンへの雇用もひとつの鍵。
2. NPC役員会に選手枠が明確に設けられていること。
3. 財政確保。選手会運営のための財政と、競技環境整備への投資。

## □ 声を届けるために選手に求められること

1. スポーツ界の問題として、意見を述べること。
  2. 声を届けるためには、選手自身も教育を受けること。
  3. 客観的なデータを世に示すこと。
-

# まとめ

---

- アスリート委員会も選手会も、その機能に差異はあるが、よりよいスポーツ界の構築に貢献する役割をもつ。
    - ⇒ 選手は誰よりも競技環境を知る、スポーツの中核にいる存在。但し、選手自身もスポーツ界の問題として声を届けることが必要。
  - アスリート委員会は、より政策提言に近い存在。選手会は、選手の相互支援、選手教育などが活動趣旨に。
  - NPCにおけるパラリンピアン雇用も、組織運営では重要な視点。但し、パラリンピアン側も、雇用されるだけの力量が必要(デュアルキャリアシステム構築の重要性とも関連)。
-

Many thanks for listening!

